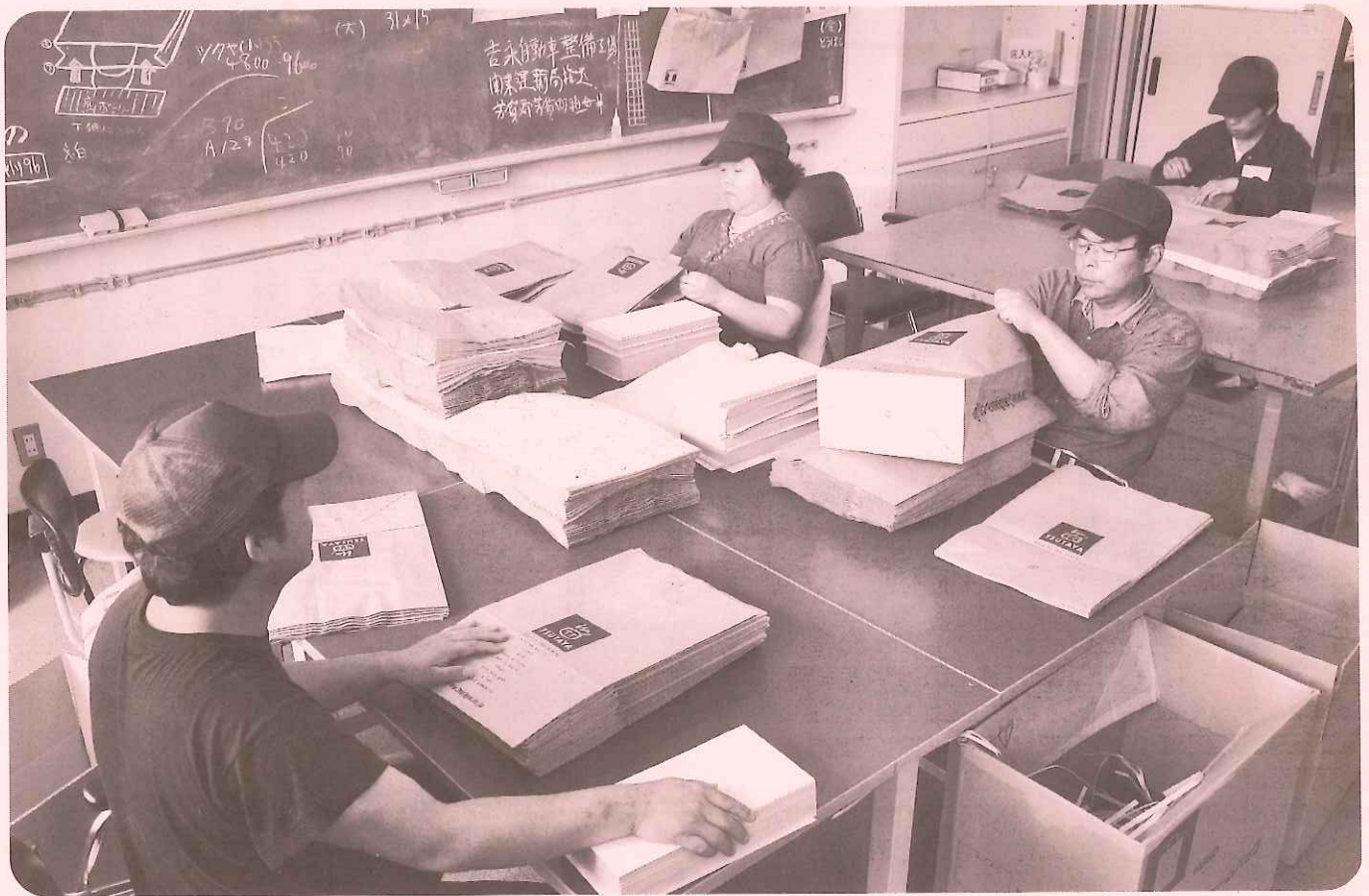


# こぶし だより

働く障がい者も  
**SSKW**  
働けるんだオレたちも



第2 けやきの作業風景

## CONTENTS

- ① トピックス ..... 2P~3P
- ② 特集「平成20年度事業報告」..... 4P~6P
- ③ こぶしサポーターズ ..... 7P
- ④ アドレス・編集後記 ..... 8P

No.329

2009  
5

# トピックス

Topics

## ■こぶしの会 それぞれの現場から②

県東ライフサポートセンター 真岡

### 「日本での生活の中で」

参加者：Rさん（女性・中国）、Hさん姉妹

（ともに女性・ブラジル）、松本

真岡市は外国人の方が多く住んでいるとの話を聞いたことがありますが、現在県東ライフサポートセンター真岡は三名の外国人の方が利用しています。一人は中国の女性、残りの二人はブラジルの姉妹です。

日本とは言葉はもちろん、風習や文化が大きく異なっていることも少なくないと思います。今日はそんな三名に実際にいろいろと話を聞いてみました、日本での生活の中でいったいどのようなことを感じているのでしょうか。

まずは日本に来てからの年月や感じたこ

と、戸惑ったことなどを聞いてみました。

Rさん「日本に来てからは一一年、日本で感じたのが食べ物とかお風呂の習慣の違い。中国だと、温泉とかの習慣はあまりない。あと、シャワーだけというのも多い。ただ、入る人はものすごく長くお風呂に入ったりする。だいたい…三時間とか」

三時間も入浴って、のぼせてしまいそうな気が…。実際、井頭温泉であまりに長く入っていてスタッフに心配されて声を掛けられたこともあるとか。お風呂に関してはHさん姉妹も同じだったようです。

Hさん姉妹「日本にきてからは二年。お風呂は驚いた。ブラジルだとみんなで入るような風習がないし、シャワーだけだった」

ふむふむ、やはり温泉に関しては国によってあたりなかつたりのようです。他にも風習や習慣で驚いたこととかは何があるでしょうか。

Rさん「お正月とかは中国でも祝つたりはする。兄弟や親せきが集まって料理をテーブルいっぱいにつけて食べたりする」

Hさん「ブラジルだと、肉とか豆が食事です。月にはそれぞれお祝いをする。花火が上がった

り賑やかにお祝いをする。お花見とかはないから、ブラジルにはない行事がいろいろ日本にはあると思った」

ちょうど食べ物の話も出たということで、食事についても聞いてみました。

Rさん「寿司や刺身がやっぱり最初は驚いた。生で魚を食べることが正直考えられなかった。最初は我慢しながら食べていた（笑）あと、中国だと麦を食べることが多かった」

Hさん「ブラジルは米よりも豆や肉の方が多かったと思う。日本に来てからは米やみそ汁とか日本食を食べることが多い。生魚はやっぱり驚いた」

Rさん「ただ、それほど食事で困つたりはしていない。日本だと水がおいしいし、食べ物もおいしい」

何か日本で困つたこととかはどうでしょうか。

Rさん「少し困つたのが、中国と日本で漢字は同じだけど意味が違う言葉があること。字が同じだから勘違いして旦那とけんかになることもある」

あとはやっぱり、生活費が大変。旦那が働

いているけれど、不況なので給料がづらい。それに税金も払わなきゃいけない。できれば働けるといいんだけど……」

Hさん「日本語も難しい、覚えていきたいとは思ってる。それと自分たちもやっぱり働いて生活費を稼いでいきたい。家族がハローワークに行ったりもするけれど、仕事はないというのが現状」

やはり生活のこと、特にお金や仕事に関してはかなり不況の影響がある様子。実際、Rさんはかなり前から働きたいということをしつと口にしていました。

逆に、日本で良かったこととかは？

Rさん「日本人はやさしいと思う。実際、日本に来てから、いろいろと話をして自分の表情がやわらかくなったと思う。ゆっくり話をして、いろいろ決めていったりするからそう感じるんだと思う」

Hさん「行きたい所もいろいろある。旅行とかも行ってみたい。でもまずは言葉を覚えたい」

Rさんはもう一〇年以上の生活をしているため、言葉もかなり上手ですがHさんの姉妹

はまだまだ日本語が難しいと感じている様子です。生活習慣や言葉、就職など私たちが感じていることもあれば、外国から来たからこその感じ方もやはりあるようでした。

今回は、最近の話や基本的な質問で終わってしまいましたが、またどこかで話を聞ければと思います。三名の方、ありがとうございました。

### 「ごぶし作業所」

## 「感謝祭」

三月一四日、ごぶし作業所では、自治会レクリエーション部企画の「感謝祭」が行われました。この企画は、仲間が「日頃からお世話になっている方々へ、お礼がしたい」ということで、作業所の紹介や歌や踊り、手作りの食事でもてなす計画を立ててきました。食事は、皆で悩んだ末、カレーととん汁になりました。

ご招待したのは、地域の方々、ボランティア、実習生、家族を対象に三六名の方が、天候の悪い中作業所へ足を運んでくれました。仲間の方も緊張の中、司会者、歌の発表者、

ダンベル体操の発表者、それぞれが役割と感謝の気持ちを込めて感謝祭をすすめることができました。

地域の代表者の方からは三〇年前、この地に来てきた頃の仲間たちの散歩の様子、ごぶしまつり〴〵の思い出話を、ボランティアのみなさんからは、あたたかい励ましの言葉をいただきました。そして「今日はありがとうございました。ありがとうございました」との言葉も。みなさん本当にありがとうございました。

これからもごぶし作業所は皆様のお力添えをいただき、頑張っていきたいと思っています。



## 社会福祉法人こぶしの会 平成20年度事業報告

特集



### 【障がい者と法人経営を巡る状況】

障がい者の受益者負担を強要した障がい者自立支援法は、施行3年を経て2度にわたる制度の手直しをしたものの、実質的に1割負担は継続。平成21年度予算による報酬基準見直しも財政的には支援費制度に戻っていない。

- ・さらに、強まる成果主義による経営管理に重くのしかかる事務量の増大
- ・金融破綻を期に、世界と日本の経済は長期的な不況に入り、雇用不安（社会の生活基盤）が広がり、地域社会に諸矛盾を拡大・深刻化させている。
- ・障がい者雇用率全国ワースト1の汚名、中でも真岡職業安定所圏内は県内最低の雇用率。一方で、全国有数の大企業誘致県。経済や地方自治体の財政再建の方向は未だ顕在化していない。
- ・基本的には、以前から社会の底辺に位置していた障がい者を巡る状況も、その影響を受けつつある。
- ・本法人は、理念に基づく経営戦略を堅持し、現状を広汎な共感と連携のチャンスと捉え、事業のさらなる発展を進めてきた。

### 【利用者・家族の状況】

こぶしの会の利用者は、4月1日現在で268名、年齢層も10代半ばから介護保険適用直前の年齢までと、障がいも年齢も幅広く、ニーズの内容でいえば、就労前支援、地域の自立生活から医療・リハビリテーションのケアまで多様な課題に対応している。

家族会は、利用者と合わせ、もう一つの要求主体であり、各事業所で活発な活動とともにこぶしの会を支える大きな力として再認識する必要がある。地域間の活動内容の違いもあるが、地域連携の核としての活動も求められる。一方で、高齢化と若い世代の生活様式の違いが大きくなってきた。家族会内部の要求の分化、ニーズの集約と施設、サービス整備の合意システムが必要となっている。また、今まで空白だった精神関連の家族会が動き始めた。

### 【利用者・家族の豊かな地域生活の進捗状況】

現在、法人では、5つの多機能的な日中活動の施設を宇都宮市、真岡市、芳賀町に設置・経営している。また、居住支援事業8ヶ所、生活及び就労相談支援センター3か所を経営してきた。

### 【労働・日中活動の場の経営】

今年度新規事業である一般就労を支援する県東・央圏域就業・生活支援センターを真岡市シルバー人材センター内に併設し、県東圏域、宇都宮を中心とする県央圏域をエリアとして事業を行ってきた。3名の職員と、1名の加配職員で運営し、2圏域の就労支援の推進を担ってきた。また、第2けやき作業所の法人委託型ジョブコーチ事業を2名配置し、障がい者の一般就労を支援してきた。就労支援担当者会議を開催、また、就労支援の学習を中心に取り組んだ。今後は、全事業所での実効性が求められる。

### 【生産活動の取り組み】

昨年比98.1%の授産収入にとどまった。長期不況の中での早急な自主製品の開拓が求められている。併せて、品質向上が求められる中で、けやき作業所は、パン製造の専門家や中小企業診断士と連携し、生産の基本からの改善を進めている。

法人では、生産活動担当者会議を開催した。けやき作業所をモデルに工賃を高める話し合いを重ねてきた。工賃倍増計画の具体化が課題である。また、現在、事業所ごとに作成している、工賃規定の作成の基準を委員会を設置し協議した。法人の、生産活動の理念、工賃の考え方、工賃の分配の考え方（利用者の作業能力の考え方）など、成果主義に偏らない基本方向を提示した。結論と実施は21年度になる。

#### 【重度・重複障がい者の中活動の支援】

医療的ケアの対応マニュアル作成と看護師の配置をけやき作業所・生活介護事業で実施した。また、こぶしの会の豊かな経験が蓄積されてきた知的重度障がい者の支援内容の再構築が改めて問われた。

#### 【居住の場、生活支援の設置・経営】

居住支援担当者会議を開催し、各地域の状況交流を中心に話し合いを持った。家族の高齢化だけではなく高まる居住支援のニーズや土日開所の体制の必要性に対し、職員配置、勤務体制の困難さが浮き彫りになってきた。

事業単位の経営を脱却し、法人として一体的、体系的な経営が求められる。

環境整備、支援内容の確立、通院などの生活支援についてもその改善を強く求められている。

家族支援の取り組みでは、高齢化による介護負担の増加と、生活基盤を再生のためのバリアフリーケアホーム建設や365日ケアホームの対応を進めてきた。ひとり暮らしを支える取り組みでは、特に、精神分野のひとり暮らしの諸問題の緊急対応のシステム構築は居住支援365日開所と合わせて大きな課題となっている。

#### 【生活相談・文化的活動を提供する事業の設置・経営】

生活相談支援担当者会議を開催し、相談支援のスキルアップ（すべての分野のスキルアップに通じる）に取り組んだ。自立支援協議会に係る重要な位置を占めており政策提案力を高める必要がある。

文化的活動支援の取り組みでは、専門家と連携した文化活動の質的発展（こぶしだより作品コンクールの開催）

就労移行の事業の本格化に合わせ、土日などの本人活動としての自由な時間の取り組みは、フォローアップ体制作りとしても重要なものになってきている。

本人活動支援の取り組みでは、本人活動支援担当者会議を開催し、各事業所の状況を把握できるようにした。事業のニーズ主体としての位置づけを明確にし、自治会活動の活性化が求められている。また、こぶしの会の特質でもある自治会活動を新任職員に対してその重要性の伝え合いが課題になっている。

#### 【法人組織・機関、職員の現状・課題】

理事会、常任理事会は、利用者ニーズ実現、共生の地域社会実現の最高経営方針決定機関と進捗の管理（理事会）、理事会決定に基づく日常経営の管理と重要事項の決定（常任理事会）が経営主体に求められている。

「一部理事・幹事の経営参加を実現してきたものの、すべての理事の経営参加を実行できたわけではなかった。」

評議員会は、今年度は、計画、中間報告、総括時期に当たる3回の会議を開催。法人内部の関係者（職員、利用者、家族、後援会）は最小限にし、地域の障がい団体や研究者、ボランティア等の地域代表の評議員ですべて構成している。こうした地域ニーズを反映するこぶしの会らしい仕組みを発揮することは課題として残さざるを得なかった。

法人事務局の取り組みとしては、今年度は、月に2回、午後にも及ぶ会議を積み重ねてきた。議論の焦点は、幹部職員集団としての法人事務局メンバーに求められる、法人理念実現の実行力、職員・関係者を理念に団結し、生きがい、働きがいを実感できる人間的調整力、外部矛盾を乗り越える経営的政策力・管理力、解決能力であった。特に、今年度の目標であった事業別経営から脱却し、法人の一体的経営を進める具体的な案件について繰り返し協議した。

常設委員会は、3つのテーマを課題とする委員会を設置し、課題解決を目指して会議を持った。教育研修委員会は計画をおおむね実施。特に、今年度の重要課題であった幹部研修を初めて開催した。

事業計画委員会はこぶし作業所建設の資金計画を作成したが、自立支援法事業移行と財政再建計画（素案）の検討は持ち越された。

人事委員会は、メンバー不足もあり、昨年までの確認に終わった。法人としての仕事の標準的評価基準と現場教育の指針である業務の標準化は急務の課題である。

新たな資源開拓を進めるプロジェクトは3つのテーマを課題としプロジェクトを設置、実施した。

こぶし作業所建設プロジェクトは生産活動、生活介護事業の内容について、作業委員会などを開催し、計画提案、設計へ。その他の資金計画、利用者募集などの準備を関係者の協力の下、具体化が迫られている。また、法人全体とこぶし作業所、その他の事業所・機関との連絡調整は事務局の課題として残っている。

芳賀町バリアフリーケアホーム建設プロジェクトについては、資金計画に課題を残しつつ、高齢化家族支援の緊急性に対応するため年度内補助金協議を申請した。

精神分野の事業開設プロジェクトは、市貝町店舗事業と県東ライフサポートセンターの事業移行を並行して進めた。前者は、日本財団助成金を申請、芳賀町事業所が連携し、地域住民との懇談会を重ねている。後者は、真岡地区事業所が連携し、計画を具体化、地域との連携、特に精神分野の家族会との連携が課題となっている。

こうした新規事業の開拓は、法人の統制が弱く、事業所先行で事業計画が進行しがちな現状の中で、財政システムの統合が求められている。

横断的な情報交換の場として、8つのテーマを課題とする担当者会議を開催した。全体的に、横断的な職員交流ができ、今までにない情報の共有がなされた。ただし、学習・交流が当初の目的であったため、各課題の解決が求められた会議からは、討議内容の実効性が求められた。

#### 【職員の状況】

全職員数は77名。内、正規職員43名、臨時職員34名。正規職員率は56%となり、居住支援関連の非常勤職員比が高く、困難な現場におけるだけに大きな矛盾となっている。

法人配置職員は3名、平成21年度人事を見越し加配した。管理的職員の構成比が大きくなっている。

また、自立支援法の実施に伴い、有資格(勤続年数、資格研修の有無など)職員の配置が求められ、法人での一体的人事管理が事業移行に伴い必要となってきた。また、臨時職員の権限や責任の在り方に現場からの疑問が上がっており、自立支援法下の新たな臨時職員の仕事の在り方が問われている。

#### 【地域との連携】

宇都宮市障がい福祉推進協議会、県東地区自立支援協議会、県東地区自立支援協議会・就労支援部会事務局、芳賀町障がい福祉計画策定委員会に参加、行政など、他機関と地域福祉増進のための連携を図ってきた。また、県東地区3町の審議会に加わり、障がい区分の判定を行った。

芳賀地区の市貝店舗開設プロジェクトは、農業者、商工会、議員、企業家等の地域関係者と連携しながら準備を進めた。また、地域の高齢化の実情や、きょうされん栃木支部の事務所として役割を果たす。自立支援法下での経営運動の困難をふまえた県内事業者の活動が求められている。

後援会員は391名(こぶし作業所後援会:135名、けやき作業所等後援会:170名、みらいの会:86名)となっている。後援会活動、及び会員数は地域により格差があり、家族会中心の活動になりつつある。後援会の意義と役割を再確認し、拡大、会員の把握、経営との連携を強める必要がある。

なお、今年度は各後援会とも、精神障がい者の暮らしをテーマにした「ふるさとをください」を真岡市(観客動員302人)、宇都宮市(289人)、芳賀町(480人)で開催した。上映活動、障がい者問題の啓発とともに、地域の団体・住民とのつながりを強める絶好の機会でもあった。特徴的な事は、不況下でも変わらない励ましを頂いた零細企業、自営・農業者など日常的に地域住民の存在であり、今後の地域福祉施策を考える上での原点を再確認したことである。

# こぶしSupporters

サポーターズ

## 後援会 保護者会・ボランティアのページ

～ こぶしの会を地域の大切な社会資源に育てるため、私たちは強力にバックアップします～

### ～この町で暮らして～

今回ご紹介させていただくのはグループホーム「第2けやきホーム」のお隣にお住まいの小池さん御夫妻です。

○小池さんはここにどのくらいお住まいなのですか？

奥様 ここは私の生まれた家なんです。主人が戦争に行き帰ってきてから結婚して一緒にずっとここで暮らしてきました。最初八百屋をやっていて、50年あちこちの学校やゴルフ場に納品していました。朝4時に家を出て宇都宮や福島市場まで行って大変だった。でもずっと働いていたから80歳を過ぎたいまでも病気ひとつしていないんです。



ご主人 おれは90歳。八百屋は9年前にやめた。それから趣味の盆栽をはじめ、そのおかげでやっぱり病気ひとつなしだよ。隣県からうちの盆栽見に来る人もいるんだ。

○確かにお二人ともとてもお元気ですね。グループホームの利用者の方たちとはどのようにお付き合いされているんですか？

奥様 みんな気さくな人たちですよ。みんな芳賀町周辺の出身だし、グループホームが出来前から知ってますから。

ご主人 第2ホームの人だけでなくコーポ峰に住んでる人も来ることがあるよ。いつだったか背の高い男の人がジャムのふたが開かなくて困ったって言ってきたっけ。(S・Mさん!?)

奥様 ホームのMさんはいつもお茶を飲みに来るよ。盆栽が好きでうちから買っていくこともある。いい人だよ。そういえば去年Sさんが亡くなってびっくりした。だって2日前、うちでお茶飲んでいったばかりだったから、あれが最後だった。とても残念だよ。

ご主人 みんな気さくでいい人だよ。挨拶もちゃんとしてくるし。そうそう、Mさんのほかにも第2作業所のTさんや、けやきのNさんが盆栽好きだってよくMさんが話してくれる。(やっぱり…)

奥様 障がいのことも知っています。調子が悪いときは顔を見ただけで直ぐ分かる。普段からよく付き合っているから。自分の子どもみたいな気持ちですよ。

○話は変わりますが、お二人だけでこの家に暮らしているのですか？

ご主人 じつは、ここから東に2件先の家に息子夫婦が住んでいる。夕食をいつも一緒に食べる。

○2件先というと第2ホームの東隣ですね。

ご主人 そうそう。

……と話しているうちに当のMさんがお店にやってきました。とおりがったKさんが挨拶をしていたり本当に気さくなお付き合いをしているようですね。小池さんのご主人・奥様いつまでも長生きして今後もよろしくお付き合い下さい。ほんとうにありがとうございました。

社会福祉法人  
こぶしの会

- こぶし作業所 ㊟321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401  
 ・知的障害者通所授産施設  
 ・日中一時支援事業  
 TEL 028(662)1911 FAX 028(662)1912  
 E-mail kobushi@chive.ocn.ne.jp
- こぶし作業所生活支援センター ㊟321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野2867-3  
 ・在宅障害(児)者の相談・支援  
 TEL 028(613)5703 FAX 028(662)1912  
 E-mail kobushi-sw@tenor.ocn.ne.jp
- こぶしのときわ荘 ㊟321-3235 栃木県宇都宮市鎌山町字東原146-7  
 ・知的障害者ケアホーム  
 TEL 028(667)5531
- くるみ ㊟321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野2867-3  
 ・知的障害者ケアホーム  
 TEL 028(664)0414
- けやき作業所 ㊟321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244  
 ・知的障害者通所授産施設  
 TEL 028(687)1040 FAX 028(677)5789  
 ・日中一時支援事業  
 E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp
- 生活介護事業けやき作業所 ㊟321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532  
 ・生活介護事業  
 TEL 028(677)0495 FAX 028(687)4818  
 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
- 第2けやき作業所 ㊟321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532  
 ・就労移行支援事業  
 TEL 028(687)0311  
 ・就労継続支援B型事業
- 県東ライフサポートセンター「ほっとCHA」 ㊟321-4305 栃木県真岡市荒町3-9-5  
 ・地域活動支援センター  
 TEL 0285(83)2567 FAX 0285(83)2567  
 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
- 県東ライフサポートセンター「真岡」 ㊟321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2305-2  
 ・地域活動支援センター  
 TEL 028(677)4430
- すずらの家 ㊟321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井178  
 ・知的障害者グループホーム  
 TEL 028(677)2876
- けやきハイツ ㊟321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井1204-4  
 ・知的障害者ケアホーム  
 TEL 028(677)0776
- 第2けやきホーム ㊟321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井775-2  
 ・精神障害者グループホーム  
 TEL 0285(81)1155 FAX 0285(81)1177  
 E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp
- コーポ峰 ㊟321-4364 栃木県真岡市長田字北原1451-2  
 ・知的障害者ケアホーム
- セルプ・みらい ㊟321-4364 栃木県真岡市亀山1043-23  
 ・知的障害者通所授産施設  
 TEL 0285(80)7765 FAX 0285(80)7765  
 E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp
- ぼてつと ㊟321-4305 栃木県真岡市荒町110-1 市総合福祉保健センター内  
 ・知的障害者グループホーム  
 TEL 0285(85)8451 FAX 0285(85)8452
- 芳賀地区障害児者相談支援センター ㊟321-4305 栃木県真岡市荒町111-1  
 ・在宅障害(児)者の相談・支援
- 県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」 ㊟321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401  
 ・障害者の就業相談・支援  
 TEL 028(613)3707 FAX 028(666)6128  
 E-mail sphb8h99@jewel.con.ne.jp
- 法人事務局(総務・企画部) ㊟321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401  
 TEL 028(613)3707 FAX 028(666)6128  
 E-mail sphb8h99@jewel.con.ne.jp

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください(閲覧時間8:30~17:00)

編集後記

5月といたら毎年恒例のゴールデンウィークがありますが、今年はずっとは違っていましたね。高速道路のETC割引(土日祝日の料金が1,000円)が適用され、高速道路はどこもかしこも大渋滞!! 私は自宅のテレビでそんな様子を見ていて、「今年はずっとのんびりしてよかったなあ」と思ってしまったのです。でも、そんな連休があけると、これが五月病なのでしょうか? だらけているわけではないのだけれど、からだだるく頭が重く感じる日々が続きました。

しかし、先日、学生時代の友人の結婚式があり、久しぶりになかまが集まりお互いの近況を話していると、彼らも仕事の愚痴をこぼしつつも現実に立ち向かってがんばっている。それぞれ業種は違えども、仕事に向かう姿勢は見習わねばと気合いを再度入れて、これからの梅雨の季節を乗り切る決意をしたある週末でした。(菊地)

編集委員

矢板 勉 松本 裕生 河原 とき子 菊地 豊 星野 早苗 稲村 淳彦

発行所 郵便番号二五〇〇七三

東京都世田谷区砧六―二六―二一  
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円